平成29年度行政評価シート【個表】

平成 29 年 6 月 22 日

評価対象事業		評価者	道路課担当課長 齋藤 政徳	
都整-16	重点事業	橋りょう維持補修事業	☒ 自治事務	主管課 道路課
			☐ 法定受託事務	関連課
総合計画上の位置付け	分野	道路整備	施策の方針	道路・橋りょうの整備・維持管理

1 事業の目的

対象	市民等
意図	市民の安全性、利便性を確保するため。
効果	安全な交通を確保するための施設保全を図る。

2 平成28年度に実施した事業の概要

<ul style="list-style-type: none"> 橋りょうの機能保持のため調査点検を行った。 劣化が著しい箇所の補修等により、安全な交通を確保した。 前年度から繰越明許費により、神戸橋の耐震補強等を着手したが、年度内に完了できないため、事故繰越しを行った。

3 事業費等基礎データ

データ区分	27年度決算		28年度決算		データ区分	29年度当初予算		備考
	人口等の	人口	177,243人	176,869人		人口	176,466人	
	世帯数	80,676世帯	80,928世帯	世帯数	81,150世帯			
運営資源状況	事業の対象者数			事業の対象者数				
	決算値(千円)	21,084	42,828	当初予算(千円)	120,207			
	国県支出金	4,101	6,873	国県支出金	55,550			
	地方債			地方債	37,800			
	その他			その他				
	一般財源	16,983	35,955	一般財源	26,857			
事業運営	人員配置数	1.8	2.0	人員配置数	2.0			
	人件費(千円)	15,344	16,598	人件費(千円)	16,442			
	総事業費(千円)	36,428	59,426	総事業費(千円)	136,649			
	市民1人当りの経費(円)	206	336	市民1人当りの経費(円)	774			
	対象者1人当りの経費(円)			対象者1人当りの経費(円)				

4 評価結果

※「効率性」「妥当性」「有効性」「公平性」「協働」については、プルダウンで選択。

効率性	事業費に削減余地はないか	2. ない
	関連・類似事業との統合はできないか	3. 統合できない
妥当性	事業の実施に対する市民ニーズはあるか	2. 増大している
	事業の廃止・休止による市民生活への影響は大きい	3. 廃止・休止による影響は大きくある
	今後も市が実施すべき事業か	5. 豊かな市民生活に寄与することから、今後も市が実施する必要がある
有効性	事業の成果は得られているか	2. 成果は概ね出ているが、更なる努力は必要である
	事業の上位施策に向けた貢献度は大きい	3. 事業の方向性や手法は概ね適切であり、一定程度貢献している
公平性	受益者負担は公正・公平か	△.負担未導入 △-2. 受益者はいるが、今後も公費により全額市が負担すべきものである
協働	市民等と協働して事業を展開しているか	△.協働未実施 協働実施済の場合のパートナー
事業内容の方向性	☒ a: 事業内容を見直す → ☐ b: 事業内容は現状通りとする ☐ c: 事業を休止又は廃止する ☐ d: 他事業と統合し、本事業は廃止する →	見直しの種類 ☒ 拡大 ☐ 縮小 ☐ その他 見直しの内容 橋りょうは安全で円滑な交通の確保に必要な不可欠な道路構造物であるため、限られた予算ではあるが、全体的に緊急性・優先性を見直し、必要な予算を計上していく必要がある。
予算規模の方向性	☒ A: 予算規模を拡大する ☐ B: 予算規模は現状維持とする ☐ C: 予算規模を縮小する	事業内容・予算規模の方向性設定の理由 市内の橋りょうは、架設後相当年数が経過しているため、点検の結果、要修繕の橋りょうが多数ある。小規模な橋りょうが多く、予防保全を図り、長寿命化を進めるためには、計画的に修繕料を予算計上し対応を図る必要がある。
総評(評価に対する考え方、根拠等)	・平成24年度に策定した「橋りょう維持修繕計画」に基づき、順次補修工事を進めているが、業務執行にかかる人員等の配置や厳しい財政状況を考慮すると、単年度で実施できる修繕には限りがある。 ・しかしながら、橋りょうは、安全で円滑な交通の確保には不可欠な道路構造物であることから、橋りょう点検調査を積極的に実施し、その結果を基に、緊急性や効果面から検討を進め、優先順位を決定し計画的な整備を進めていく。	

平成28年度事業実施にあたっての課題 (前年度未解決の事項を含む)	主要な橋りょうについては点検調査の結果を基に順次補修工事を行っているが、単年度で抜本的な補修工事ができる橋りょうには限界がある。	
課題解決のために行った平成28年度の取組	橋りょう長寿命化修繕計画に基づき、事後保全型な管理から予防型管理への転換を図り、合理的に維持管理を行っている。	☐ 解決 ☐ 一部解決 ☒ 未解決
未解決の課題、新たな課題とその理由	小規模な橋りょうも多く、計画的な維持管理を行うためには、職員の増員はもちろんのこと修繕料の予算確保が必要である。	

○ 他市比較・ベンチマーク(県内外自治体など他自治体や民間団体との比較値)

比較事項									
団体名									
他市実績									
比較事項									
団体名									
他市実績									
比較事項									
団体名									
他市実績									
当該事業実施に伴う他市比較に関する考え方									

◎ 事業実施に係る指標

指標の内容							単位		指標の傾向		備考
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31				
	目標値										
	実績値										
	達成率										
指標の内容							単位		指標の傾向		備考
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31				
	目標値										
	実績値										
	達成率										
指標の内容							単位		指標の傾向		備考
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31				
	目標値										
	実績値										
	達成率										
当該事業実施に伴う指標の推移に関する考え方											